

佐賀県研究成果情報（平成 22 年度）

ミカンコナジラミに対する薬剤の効果					
[要約] カンキツを加害するミカンコナジラミに対して、有機リン系薬剤、ネオニコチノイド系薬剤及び合成ピレスロイド系薬剤などの殺虫効果は高い。					
果樹試験場・病害虫研究担当			連絡先	0952-73-2275 kajushiken@pref.saga.lg.jp	
部会名	果 樹	専 門	果樹虫害	対 象	カンキツ

[背景・ねらい]

県内の一部の慣行栽培のカンキツ園において、ミカンコナジラミが高密度に寄生し、すす病を発生させる事例が確認された。近年、ミカンコナジラミの発生はほとんど問題とならなかったため、薬剤の防除効果に関する知見は少ないのが現状である。そこで、ミカンコナジラミに対する薬剤の効果を検定し、防除対策の資料とする。

[成果の内容・特徴]

1. ミカンコナジラミの成虫に対して、有機リン系薬剤（DMTP 乳剤）、ネオニコチノイド系薬剤（クロチアニジン水和剤、ジノテフラン水和剤、イミダクロプリド水和剤、チアメトキサム水和剤、アセタミプリド水和剤）、合成ピレスロイド系薬剤（シラフルオフェン水和剤、ピフェントリン水和剤）、ピリダベン水和剤及びトルフェンピラド水和剤の効果が高い。
2. ミカンコナジラミの卵に対して、有機リン系薬剤（DMTP 乳剤）、ネオニコチノイド系薬剤（クロチアニジン水和剤、ジノテフラン水和剤、イミダクロプリド水和剤、チアメトキサム水和剤、アセタミプリド水和剤）、合成ピレスロイド系薬剤（シラフルオフェン水和剤、ピフェントリン水和剤）、ピリダベン水和剤、トルフェンピラド水和剤及びブプロフェジン水和剤の効果が高い。

[成果の活用面・留意点]

1. 今回の殺虫効果の検定は、2010 年 6 月及び 8 月に太良町の温州ミカン園から採集した成虫及び卵を供試している。
2. カイガラムシ類、ゴマダラカミキリ及びチャノキイロアザミウマの防除を目的とした薬剤で、ミカンコナジラミの同時防除も可能である。
3. ミカンコナジラミに対する効果を高めるため、薬剤はかかりむらがないようにていねいに散布する。

[具体的データ]

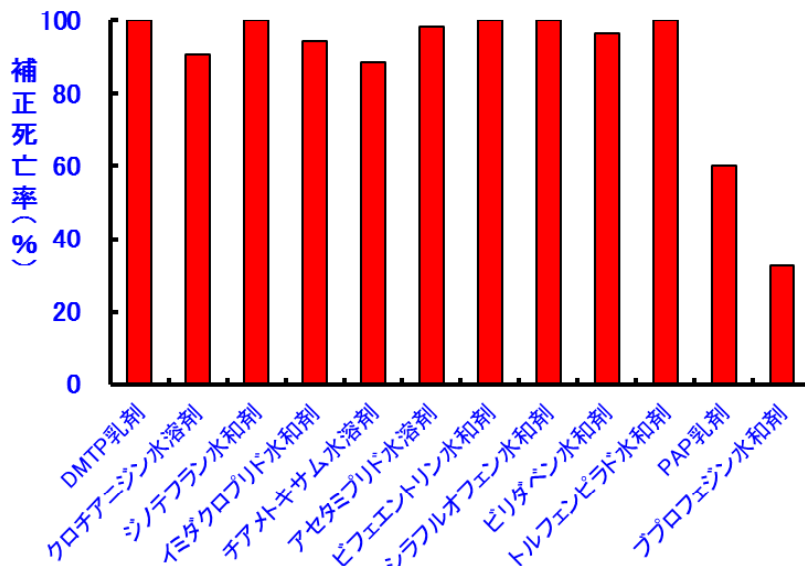


図1 ミカンコナジラミ成虫に対する各種薬剤の殺虫効果(2010)

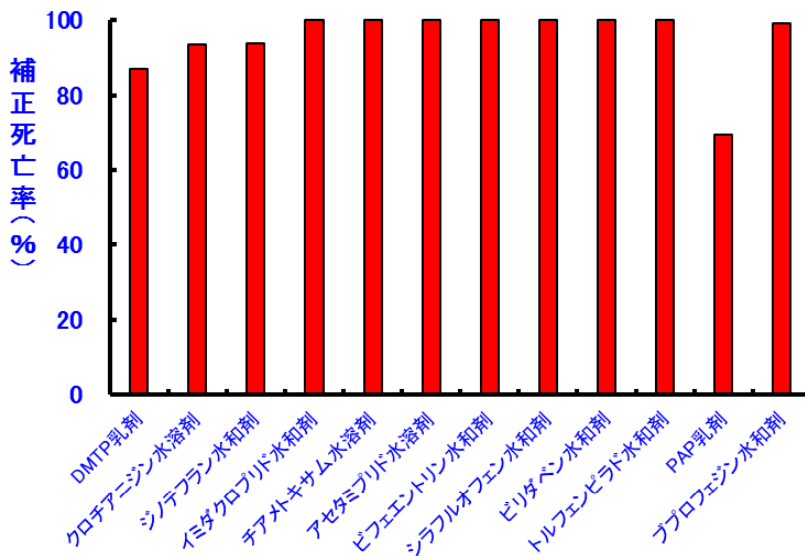


図2 ミカンコナジラミ卵に対する各種薬剤の殺虫効果(2010)

[その他]

研究課題名：ミカンコナジラミの薬剤感受性

予算区分：国 補 食の安全・安心志向に対応した果樹病害虫制御技術の構築

研究期間：2010年（2009年～2011年）

研究担当者：口木文孝・井手洋一・野口真弓

発表論文等：口木文孝・井手洋一・野口真弓 九州病害虫研究会第81回研究発表会（熊本市）で発表

平成22年度 果樹試験場業務年報

「平成23年度病害虫防除のてびき」に内容を記載